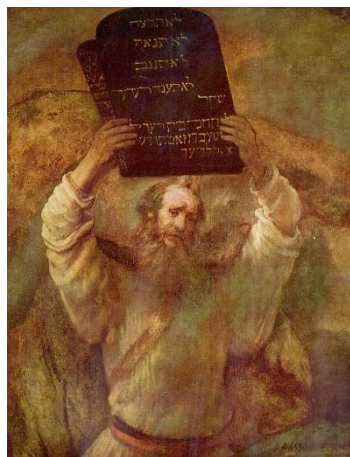


十戒

知っておきたいキリスト教のことば (88)

十戒とは、神さまがモーセを通してシナイ山で与えた十の戒めのことです。二枚の石の板に書かれた内容は、神さまがイスラエル共同体に対して説いた倫理的な命令となっています。これは旧約聖書の出エジプト記 20 章 2～17 節と申命記 5 章 6～21 節に書かれており、イスラエルの民が神さまから与えられたこの掟を守ることで、神さまはイスラエルを自分の民とするという双務契約（お互いが義務を負う契約）が交わされています。



以下は聖公会の祈祷書にある「教会問答」にある十戒です。1 わたしのほかに、何ものをも神としてはならない、2 自分のために刻んだ像を造ってはならない、3 主の名をみだりに唱えてはならない、4 安息日を覚えてこれを聖とせよ、5 父と母を敬え、6 殺してはならない、7 姦淫してはならない、8 盗んではならない、9 偽証してはならない、10 むさぼってはならない。

教派によって掟の数え方が違い、隣人の妻を欲するなという戒めと隣人の家をむさぼるなという戒めを、ローマカトリックやルター派は別のものとして数えます。しかし正教会や改革派はそれらを一つとして数え、その代わりに像の禁止を強調しているため、キリストの彫像が礼拝堂に置かれることはありません。

イエス様の時代、人々はこれらの戒めを守ることで、救いを得られると信じていました。ところがイエス様は、「昔の人は『殺すな。人を殺した者は裁きを受ける』と命じられている。しかし、わたしは言うておく。兄弟に腹を立てる者はだれでも裁きを受ける」という、さらに厳しい戒めを示されます。このイエス様の言葉は、いくら自分の力で正しい者になろうとしても、人間には無理だということを伝えています。自分の力に頼るのではなく、弱く罪深い自分を認め、神さまに委ねることが必要なのです。

次回は「使徒」です。お楽しみに。